

奥 羽 大 学 報



卒業証書・学位記授与式

目 次

平成 27 年度卒業証書・学位記授与式	2
学位論文題名一覧	4
卒業記念贈呈式／謝恩会	5
歯周炎の遺伝子解明 ～治療薬開発へ前進～／歯科医師国家試験／ 薬剤師国家試験	6
無垢サロン／奥羽大学の理念・目的	7
職業研究セミナー／薬学部FD研修会／ 薬学部入学前教育（スクーリング）／歯学部教員研修講演会	8
奥羽大 now／インターンシップに薬学生が参加	9
歯学部研究紹介／薬学部研究紹介	10
薬学部の佐藤佳澄さんが第1回 AROMA RESEARCH 2015・論文奨励賞を受賞／ 自著を語る	11
臨床実習学外研修参加報告／瀬川教授ら歯周病減少へ提言書／ 附属病院	12
父兄会	13
同窓会だより／同窓生のひろば	14
「藤井史郎文庫」オープン／二期会の皆さまへお知らせ	15
本学関係新聞記事案内（平成 26 年 12 月～ 28 年 3 月 31 日）	16
赤川学長ご退任のあいさつ／退職によせて／人事	17
平成 28（2016）年度オープンキャンパス実施計画	18

平成27年度卒業証書・学位記授与式

平成27年度卒業証書・学位記授与式が3月10日(木)午後1時より本学記念講堂において挙行された。

式典は、多数の来賓のご臨席を賜り、保護者や教職員が参列する中、厳粛に進行した。

来賓を代表して学校法人晴川学舎影山英之理事長が祝辞を述べられ、赤川安正学長が告辞を贈った。また、卒業生を代表して薬学部薬学科の熊谷文哉君が答辞をした。

歯学部歯学科49名、薬学部薬学科71名に卒業証書ならびに学位記が、また大学院修了者8名と論文提出者2名に博士(歯学)の学位記が、それぞれ一人一人に授与された。

さらに成績優秀者には晴川賞と優等賞が贈られた。

◆晴川賞

歯学部歯学科 佐藤知哉

◆優等賞

歯学部歯学科 安齋瑤美



答辞を述べる熊谷文哉君



晴川賞を受賞する佐藤知哉君

祝 辞

理事長 影 山 英 之

卒業証書並びに学位記を掌にされます皆さんと、御臨席なされましたご父母各位に心よりお祝いを申し上げます。まことにおめでとうございます。

今、当に本学を翺び立たんとする皆さんの胸中には、これまでの様々な経験の記憶が去来していることと拝察します。

経験から何を学ぶかは人それぞれにより異なるでしょうが、経験したことに無駄なことは一つとしてなく、必ずや皆さんの人生に豊かな実りを齎す、良質な肥料となってくれることでしょう。

千年に一度あるか無いかの大災害に遭遇し、明日で早五年を数えます。被害を受けた街並みも其摠此摠にボツリボツリとですが、復興住宅が建ちました。原発は制御不能のままで痛ましい姿を晒しておりますがこのような中にあっても、本日の晴れの卒業式を迎えられた皆様程、力強い存在はありません。どうぞこの勢いを持ち続けられて、限りなく前進して下さい。

今より後、何事も一朝一夕に出来ることばかりではありませんが、困難が全てでもありません。今、自分の前になすべきことがあれば、できぬ心配をするよりは、できたときの喜びを心に描いてやってみる事です。失敗は成功の母、何度でも立ち直る努力を厭わなければ、挫けることは恥にはなりません。

今日の仕事を明日に延ばさず、今日の仕事としてやり遂げる事です。一日一日実行し、繰り返し、積み重ね続けていく先に、新たな可能性が生まれ目標は必ず達成されます。

とりわけ志を持って六年の歳月を費やした本学で、皆さんが「物事の本質を捉える大切さ」を学んでくれれば、私共にとってこれ以上の喜びはありません。

皆さんが常に良識と善意を備え、社会から望まれる立派な歯科医師又は立派な薬剤師となって、地域社会に貢献され、世界平和に寄与してくれることを希っております。

本日はおめでとうございます。

告 辞

学長 赤川 安 正

卒業生の皆さん、ご卒業 誠にありがとうございます。また、卒業生のご両親、ご親族の皆様には今日の日を大きな喜びをもってお迎えのことと存じ、心よりお祝いを申し上げます。

本日、ここに、学校法人晴川学舎理事長 影山英之先生を始めとするご来賓の方々と、卒業生のご両親、ご親族の方々のご臨席を賜り、平成27年度の卒業式を挙行できますことは、本学にとって最も大きな喜びとするところであります。

本学は「人間性豊かな歯科医師を育成する」ことを建学の精神に掲げ、1972年、東北・北海道地域における唯一の歯科大学として創設されました。2005年には、「人間性豊かな薬剤師を育成する」ため、歯学部との連携のもと、福島県で初めてとなる薬学部を創設いたしました。以来、今日まで、歯学部では4106名の卒業生を、薬学部では613名の卒業生を、それぞれ世に輩出してまいりました。本学の建学の精神・理念は「人間性豊かな医療人を育成する」ことですが、そこには、本学の創立者影山四郎先生の強い思いが込められています。現在、安倍総理肝入りの教育再生会議で「若者が持つべき生きる力」が議論されていますが、①として「豊かな人間性」、②として「健康・体力」、③として「確かな学力」、の3つが挙げられています。この「生きる力」の一番目こそ「豊かな人間性」なのです。本学は40年以上前の創立時から、先見性を持って「豊かな人間性」を育てており、今日、皆さんは「人間性豊かな歯科医師・薬剤師」となる基礎を確立し、本学を巣立とうとしています。

現在、我が国は世界に類をみない速度で超高齢化が進んでおり、この課題の解決を先進国は固唾をのんで見守っています。このような中であって、国民の最大の関心事は、健康で自立して長生きをする「健康長寿」であります。このことに大きな貢献ができるのが歯科医師であり、薬剤師なのです。すなわち、国民のひとりひとりが 元気な時はもちろんのことですが、要支援や要介護、すなわちフレイルの状態になっても「口から食べる生きる喜び」を与えることが歯科医師の最大の仕事であります。一方、薬剤師の最も大きな仕事は、様々な病気に苦しむ患者さんに寄り添って最も適切な薬物療法を提示し、責任をもってそれを実施することにより「自立して生きる喜び」を与えることであります。

卒業生の皆さんは、自らの夢である「歯科医師になる」「薬剤師になる」ことを実現するため、この郡山の地で出会い、この郡山の地で学んできました。その学びの時間の中では、知識や技術の獲得と共に一生の友情も育んだに違いありませんし、また一方では、学習方法や友人関係で悩んだこともあったものと拝察いたします。更に、誰も経験したことのない東日本大震災に遭遇し、また福島第一原発事故による風評にもさらされ、大変な困難もあったことと思います。そのような中であっても、医療系大学の学生として正しい判断の下に行動し、今日まで学業に励んでくれたことに、心から敬意を表するものであります。

卒業生の皆さんは今後、歯科医師として、あるいは薬剤師として活躍し、社会と国民に奉仕をするわけですが、医療の現場では、「誠実さ」、「コミュニケーション」、「チームワーク」、「高い倫理観」などが必須の事柄です。皆さんは本学の建学の精神を具現した歯科医師・薬剤師なのですから、必ずや多職種協働のなかでも中心的な役割を果たしてくれるものと確信をしています。

時代は明らかに皆さんを求めています。こままで大きくしてくださったご両親、ご家族、ご親族への感謝の気持ちを決して片時も忘れることなく、自らの夢をしっかりと追いかけて下さい。本学の教職員は皆さんを一生懸命教育し、また支援し、皆さんの内なる心に火をつけました。これから皆さんは、科学の基盤に立ち、患者さんを中心とした最適な医療を実践する心と力をさらに培って下さい。そのために、自らの能力を信じ、ひたむきに、努力を積み重ねて下さい。そして、奥羽大学卒業生としてのプライドを背負って、いろいろな分野で活躍してくれることを大いに期待しています。その活躍こそが、東北地域における医療面での復興にさらに貢献するものであり、奥羽大学の価値をさらに高めるものと確信をいたします。母校奥羽大学も、皆さんの活躍に負けないように、さらに発展する決意であります。

結びに、卒業生の皆さんのご健康と今後のご活躍を心から祈念し、これを告辞いたします。

答 辞

卒業生代表 薬学部 熊谷 文哉

墨絵のような冬景色もいつのまにか消え、温かい風が吹き、桜の花が咲きこぼれる待ち望んだ春、颯颯の初夏の風の子感、今日この日、私たちは卒業を迎えることができました。本日はこのような盛大な式典を開催していただき、卒業生一同心より御礼申し上げます。

理事長先生、学長先生をはじめ、ご来賓の先生方、関係各位の皆さまのご臨席と、激励のお言葉を賜り誠に有難うございます。

美しい庭園に囲まれ小高い丘に建つ奥羽大学に、希望と不安を抱えて入学してきた私たち。青春の糸がもつれたままの萌出る若い芽はわけもわからず足場の定まらぬ不確定の年代。目印となる旗が立っているわけでもなく、踏みならされた道があるわけでもなかった私たちの茫洋とした未来に、旗を立て、道を指し示し、教え導いて下さったのはここに御臨席されている先生方であり、改めて感謝申し上げます。もつれた糸を結びなおしそれを縦の糸とし、横糸に学問という鋼鉄の芯を一日一日注ぎ、織りな

してくださった御指導により、これからの永い歳月の中で私たちは自分の一枚のタペストリーを仕上げ、力を得ることができました。

奥羽大学で出会った友たち、ゆく道はそれぞれだが、形の定まらぬ未来のために準備するという徒労とも思えるような日々とともに生きた友たち、君たちがいてくれたから私たちは人を信じ、楽しく、安らかに過ごせました。そして、どんな時も優しく温かく見守ってくれていた家族、今まで言葉にすることができなかったものを今ここで私たちは大きな声で「有難うございます」と言います。

人間性豊かな薬剤師、歯科医師へのスタートラインに今、私たちは立ちました。この先には予想だにしない困難が待ち構えているかもしれません。しかし、ここ奥羽大学で学んだ日々の経験は深く静かに私たちの心に堆積しています。その地層を糧とし、医療を、学問を担っていく所存です。

最後になりましたが、諸先生方やご来賓の皆さまのより一層のご健勝と、奥羽大学のますますのご発展を心より祈念いたしまして、答辞とさせていただきます。

学位論文題名一覧

学位取得者	専攻・講座	論文題名
林 幹太	生体材料科学講座	PEMAとアネトールを主成分とする仮着材の開発
山崎崇秀	歯内・歯周療法学	Histological demonstration of bone healing in rat tibiae influenced by diode laser irradiation
小嶋忠之	顎口腔外科学	末梢性塩味味覚障害がショウジョウバエの摂取量および寿命に与える影響
山内 聡	顎口腔外科学	運動ストレスと口臭に関する研究
菊地隆太	顎口腔外科学	マウス末梢神経切断後の一酸化炭素合成酵素(NOS)の発現
北見修一	口腔機能分子生物学講座	顎反応時間の特徴と関連する脳機能の解析
三村千春	顎顔面口腔矯正学	FR3を適用したⅢ級不正咬合者の筋活動の変化と姿勢の関連性
山田真貴子	顎顔面口腔矯正学	三次元顔貌シミュレーションによる骨格性下顎前突症患者の理想とする顔貌の評価
柴原栄一郎	口腔機能回復学	連結固定に対する歯科インプラント応用の試み －骨レベルおよび連結条件による影響－
松本一文	歯内・歯周療法学	支台歯の構造改変による歯根保全に関する研究 －弾性体応用による歯根の保護性－

卒業記念贈呈式

3月8日(火)、平成27年度卒業記念贈呈式が午後1時より学長室にて行われた。歯学部代表の千喜良仁君、薬学部代表の佐藤真優さんから卒業記念としてそれぞれ10万円が贈呈され、赤川学長より、後輩及び大学のために大切にに使わせていただきます、との謝辞があった。



謝恩会

歯学部

3月10日(木)卒業証書・学位記授与式後、午後7時よりホテルハマツにおいて歯学部第39期卒業準備委員会の主催により謝恩会が開催された。

赤川学長、大野歯学部長、佐藤父兄会会長、及び渡辺同窓会会長からの祝辞、学年主任の高田教授より卒業生への贈る言葉をいただいた。

卒業生たちは恩師や学友、保護者と6年間の大学生活の感謝や思い出を和やかに語らい合っていた。

薬学部

3月10日(木)午後6時から、郡山駅前のビューホテル・アネックスにおいて、薬学部第8期卒業準備委員会の主催による謝恩会が開催された。

準備委員会委員長佐藤真優さんの開会宣言、菅野淳一薬学部父兄会長の挨拶に続いて、衛藤雅昭薬学部長が、第二次世界大戦時、多くのユダヤ系難民を救ったことで知られる外交官杉原千畝を例に挙げて、常に自らの良心に鑑み行動する薬剤師になってほしいと卒業生たちへの期待を述べられた。そして学年主任柏木良友教授が乾杯の音頭をとると、皆、恩師や学友たちと和やかに語らい、別れを惜しむ光景が展開された。



奥羽大学歯学部 第39期卒業謝恩会



祝 奥羽大学薬学部 謝恩会



歯周炎の遺伝子解明

この度、Journal of Clinical Periodontology に掲載予定の、"Fibroblast VEGF-receptor 1 expression as molecular target in periodontitis" の内容に基づき、「歯周炎の原因遺伝子解明」と題した記事が1月22日(金)付福島民友新聞の一面トップに、さらに「日本歯科新聞」2月16日(火)号、「財界ふくしま」4月号にも同様の記事が掲載された。

この遺伝子は、以前私どもが発見した歯周炎の原因細胞(歯周炎関連線維芽細胞)が、生体外歯周炎モデルでコラーゲンを分解する際に極度に発現が上昇する遺伝子である。この遺伝子はFLT1、別名血管内皮細胞増殖因子受容体1とも呼ばれ、通常の線維芽細胞ではあまり発現がみられない。この受容体の働きや遺伝子発現を抑えるとコラーゲン分解も抑制されたことから、FLT1を標的とした薬剤が新しい歯周炎治療薬になるのではないかと提案し、論文を締めくくった。掲載前にもかかわらず各方面から注目していただき驚いているが、これは新しい歯周炎治療に対する人々の期待とも解釈できる。治療薬の試験はこれからであるが、一日も早い新規歯周炎治療法の確立を目指したい。最後に、この研究を支えてくださった衛藤薬学部長や赤川学長をはじめとした数多くの方々に深謝申し上げます。

(薬学部 教授 大島 光宏)

～治療薬開発へ前進～

第40070号(日刊)

昭和21年3月15日(第三種郵便物認可)

福島民友

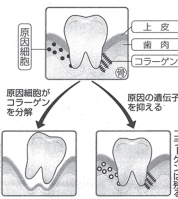
THE FUKUSHIMA MINYU

歯周炎の原因遺伝子解明

奥羽大の
大島教授 治療薬開発へ前進

米専門誌に論文掲載へ

歯周炎は、歯と歯を支える歯肉にある「線維芽細胞」が骨の間のコラーゲンを破壊し、原因があることを解明する。最近の実験では、この遺伝子を抑制すると、コラーゲンの分解が抑制され、歯肉の炎症が軽減される。大島氏研究で、歯周炎の原因遺伝子であるFLT1の働きを抑えることで、コラーゲンの分解が抑制され、歯肉の炎症が軽減される。大島氏研究で、歯周炎の原因遺伝子であるFLT1の働きを抑えることで、コラーゲンの分解が抑制され、歯肉の炎症が軽減される。



「この研究は、歯周炎の原因遺伝子であるFLT1の働きを抑えることで、コラーゲンの分解が抑制され、歯肉の炎症が軽減される。大島氏研究で、歯周炎の原因遺伝子であるFLT1の働きを抑えることで、コラーゲンの分解が抑制され、歯肉の炎症が軽減される。」

「この研究は、歯周炎の原因遺伝子であるFLT1の働きを抑えることで、コラーゲンの分解が抑制され、歯肉の炎症が軽減される。大島氏研究で、歯周炎の原因遺伝子であるFLT1の働きを抑えることで、コラーゲンの分解が抑制され、歯肉の炎症が軽減される。」



1月22日(金)の福島民友一面トップ記事

歯科医師国家試験

1月30日(土)、1月31日(日)、宮城県仙台市ほか他会場にて第109回歯科医師国家試験が行われた。

合格発表は3月18日(金)に厚生労働省のホームページ、各地方の厚生局で発表された。

本学からは148名が受験し、合格者は46名であった。そのうち新卒者は49名が受験し、合格者は21名であった。

薬剤師国家試験

2月28日(土)、29日(日)の両日、産業見本市会館サンフェスタ(宮城県仙台市)ほか他会場にて第101回薬剤師国家試験が行われた。合格発表は3月28日(月)に厚生労働省のホームページ、各地方厚生局で発表された。

本学からは147名が受験し、合格者は91名であった。そのうち新卒者は71名が受験し、合格者は36名であった。



感動したこと

薬学部長 衛藤 雅昭

全国薬学部長会議などで東京・芝の慶応義塾大学薬学部に行く機会が多い。ある日、会議の合間に周囲を散策した。すぐに日本赤十字社本社を見つけた。私は30代の頃、地方の日赤病院糖尿病内科に勤務したことがあり、きびきびした規律正しい雰囲気の病院だったことを思い出しながら、ここが本社だったのかと立ち止まった。正門とその塀に沿って日本赤十字社の変遷を示す大きな写真が並べられていた。その中に外国の子供たちが日赤職員によって保護されている何枚かの写真が印象に残った。帰学後、調べてみた。

それは大正時代にさかのぼる。長い間、帝政ロシアに支配されていたポーランドは、第1次世界大戦後の1918年に独立した。それ以前にロシアから独立を企てて失敗したポーランド人革命家は、政治犯としてシベリアに流されていた。当時、ロシア革命の混乱の中で政治犯とその家族や難民たち十数万がシベリアに取り残されて、寒さと飢えと疫病に苦しんでいた。独立後のポーランド新政府は、そんな危機的な状況を憂い、せめて子供たちだけでも救出して祖国に送り届けられないものかと欧米政府に依頼したがどこも冷ややかだった。最後に駄目元で国交はなかったがシベリアに近い日本に救済を求めたところ、日本政府は快く受け入れを決定した。日本赤十字社の協力で、決定から早くも2週間後に帝国陸軍の輸送船に乗せられたシベリアのポーランド人孤児が到着した。輸送船は何度か往復し合計765人の子供たちが送り届けられた。日本では、手厚い看病を受け、栄養ある食事が振る舞われた。ニュースで知って、自分の服、櫛、リボンを贈った日本の子供たちもいたという。やがて健康を回復して元気になった孤児たちは祖国に戻った。その後シベリア孤児の話は、現在に至るまでポーランドで語り継がれている。「地球の反対側の日本人が、不運なるポーランドの子供たちにかくも深い同情を寄せ、心から憐憫の情を示してくれたことに、われわれポーランド人は肝に銘じてその恩を忘れず、日本人に対して深い尊敬、感謝、友情、愛情を持っていることをお伝えしたい」というポーランド政府からのメッセージが残っている。

私が日本赤十字社本社で見た写真は、このポーランド人孤児たちだったのだ。この人類愛、博愛主義に感動するとともに、日本人として誇らしく思った。われわれ医療人、医療人を目指す者にとってこの精神こそ原点ではないかと深く感動し、約100年前のお話をここに紹介した。

奥羽大学の理念・目的

理 念

高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな人材を育成する

目 的

奥羽大学は、教育基本法（昭和22年法律第25号）並びに学校教育法（昭和22年法律第26号）に基づき、広く知識を養うと共に、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道德的及び応用的能力を育成し、国民の福祉と文化の発展に寄与することとし各学部のその目的は、次の各号のとおりとする。

1. 歯学部は、高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな歯科医師を養成する
2. 薬学部は、高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな薬剤師を養成する

職業研究セミナー

昨年12月10日(木)・11日(金)の2日間、薬学部生を対象とした職業研究セミナーが本学メモリーにて開催された。

病院、調剤薬局、製造業など105社150名が参加し、それぞれの事業所の特徴、事業展開、今後の取り組み等の説明がなされ、熱心に耳を傾け、面談する参加者の姿が多く見られた。



薬学部入学前教育(スクーリング)

2月8日(月)～10日(水)、薬学部のAO・推薦入試合格対象者16名を対象とした入学前教育(スクーリング)が行われた。受講者は有機化学や分析化学の講義・実験・演習を行ったり、学食で先輩達と歓談して、一足早く大学生活の雰囲気を感じ、基礎学力・技能を修得した。特に、バラの香りの物質を酸化させてにおいが変化する実験が印象深かったようで、4月からの本格的な授業が待ち遠しいと一様に感想を述べていた。



薬学部FD研修会

1月22日(金)、本年度第2回目のFD研修会「大学授業における記憶に残すための方法及びやる気の高め方」(講演: 奈良教育大学 豊田弘司教授)が開催された。講演は、授業の導入部の重要性や授業中の注意力低下対策、理解を促す授業の仕方、持続的に意欲を継続させるための工夫、学生にとっての良い教員、教員の言葉と学生のやる気との関係などについて、教育心理学の研究成果や実例を織り込んだ内容だった。「やる気が理解をもたらし以上に、理解がやる気を引き出す」など教育心理学を応用した指導上のヒントや、学生には「言語理解型とイメージ理解型がある」など、個々の学生の「理解スタイル」を把握し指導する重要性についても学ぶことができた。



歯学部教員研修講演会

歯学部FD委員会による標記講演会が2月26日(金)に臨床講義室で開催された。

最初に日本歯科医学教育学会主催による第6回歯科医学教育者ワークショップへ参加した岡田英俊教授、金秀樹准教授からそれぞれ「ワークショップの概要」、「アウトカム基盤型教育」について詳細な報告が行われた。その後、本年度の参観授業を担当した10名の教員に対する参観者84名の授業観察表の集計結果および3回開催したワークショップ「打倒109回」終了後の各教員の感想の分析結果が歯学部FD委員より報告され、本学の歯学部学生に必要な教育法について全教員が認識を深めた。



奥羽大now

変ります、本学周辺！

ふくしま医療機器開発センター

逆池（さかさいけ）そばの磐越西線向う側、旧県農業試験場跡地の高台に、建築中のビルが見える。新駅「郡山富田駅」予定地の南に隣接している場所だ。福島県が重点施策と位置付ける「ふくしま医療機器開発センター」である。同センターのホームページによると、完成は本年10月を予定しているという。そのコンセプトは医療機器の開発から事業化までを一体的に支援する国内初の拠点を目指すというもの。医療機器の安全性評価、メーカーと企業間マッチング支援、人材育成、コンサルティングなどが内容。意外と知られていないが、福島県は医療用機器器具部品出荷額全国1位（『福島県の指標2015』）というから、相乗効果が期待できそうだ。



逆池から建築中のビルを臨む

来春、新駅「郡山富田駅」誕生

本学から北西300m先「セブンイレブン」前に、JR東日本の新駅「郡山富田駅」が来春誕生する。郡山駅と喜久田駅の間地点に位置する場所で、既に昨年秋頃から「新駅予定地」という看板が建設場所に立っている。富田町をはじめ、周辺住民の長年の要望が実現する見通しとなった。

郡山市の情報によると、1日の利用者数は1000人と見込んでいるようだ。跨線人道橋を設けて、県道荒井郡山線につなげるという。

本学への通勤・通学・通院はもとより、近隣の人たちにとっても、ますます便利になりそうだ。地域の活性化が期待される。



新駅予定地を通過する磐越西線

インターンシップに薬学生が参加

1月16日(土)、仙台で開催されたインターンシップに多根井研究室の神山祐樹君と渡辺綾さんが参加し、学生のイメージする薬局像をレゴブロックで立体的・具体的に表現した。

考案したプランのコンセプトとしては東北地域の気候を念頭に、お母さんの気持ちを重要視した清潔感あふれる薬局である。トイレや待合室のイスについてはゆったりと広めに設計し、授乳室も設置した。また、免疫力が低い子どもへの感染を考慮した別室も設けた。キッズスペースについては常にお母さんの目が行き届くように配置することで、安心して薬の説明を受けることができ、空調温度にも配慮した環境にやさしいプランを提案した。



歯学部研究紹介

細菌感染時に骨吸収抑制因子OPGが果たす作用とメカニズムの解明

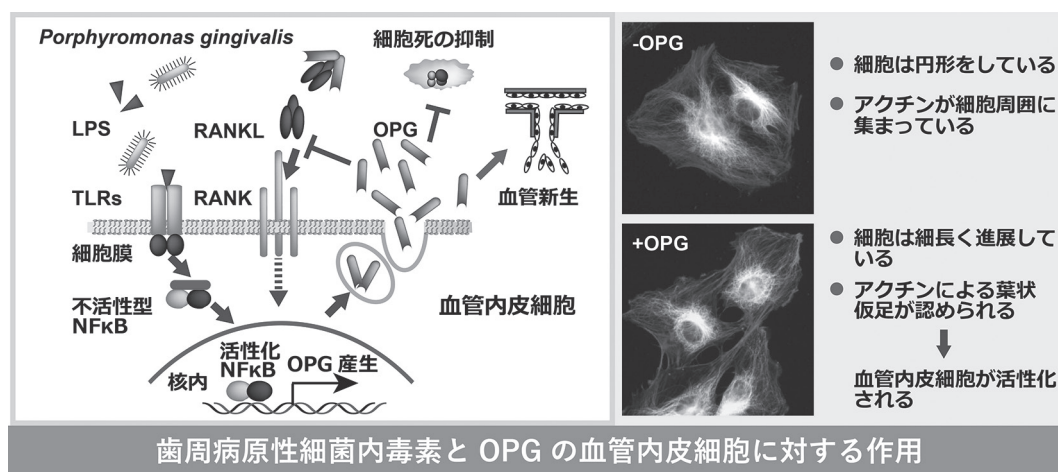
口腔病態解析制御学講座 助教 小林 美智代

”骨が減るのを妨げるもの”を意味する名を持つOsteoprotegerin(OPG)は破骨細胞活性化因子RANKLと共に骨代謝の最重要因子の一つである。しかし、OPGは骨吸収を阻害するだけでなく、血管石灰化の抑制、がん細胞の増殖亢進と細胞死抑制を行う。この多様な作用は、OPGが”囀(おとり)受容体”として複数種類の受容体と競合し作用することで惹起される。

私は歯肉溝浸出液中のOPG濃度が歯周病の病態に応じて増減すること、血管内皮細胞が大きなOPG供給源の一つであると考えられることから、歯周病におけるOPGの働きと血管内皮細胞について研究を行ってきた。その結果、歯周病原性細菌の内毒素(LPS)などにより血管内皮細胞からOPGが産生されること、OPGが細菌性プロテアーゼによる細胞死を抑制すること、血管新生を促進させることなどを見出し、報告した。これらのことから、OPGが感染防御の一翼を担っている可能性が考えられる。

歯周病など多くの慢性感染症は心血管疾患の発症リスクを高める。そして、慢性感染症はしばしば高い血中OPG濃度を伴い、それは予後と有意に関係している。それらの機序の解明が今後の課題である。

本研究は、日本学術振興会科学研究費補助金(基盤(C)H18-19、基盤(C)H22-24)の補助の下で行われた。



薬学部研究紹介

有機リン化合物の誘導体化に関する研究

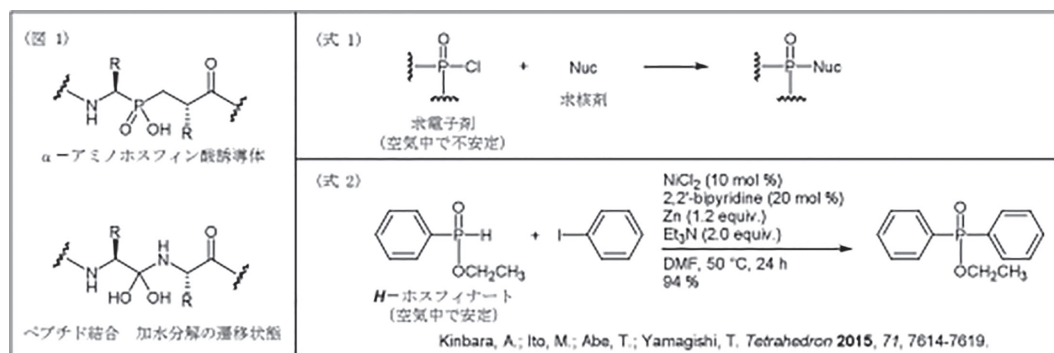
有機化学分野 助教 金原 淳

特定の官能基をもつリン化合物は、様々な生理活性を示します。例えば、 α -アミノホスフィン酸誘導体(図1)は、タンパク質のペプチド結合が加水分解する際の遷移状態と構造の類似性を持ち、実際の開裂は起こらないため、特定のタンパク質分解酵素を阻害することが知られています。

従来、リン原子に官能基を導入する場合、求電子剤であるリン化合物に対して求核剤を反応させる手法が主流でありました(式1)。しかし、リン化合物を求電子剤とする場合、求電子剤が空气中において不安定であり合成が難しいため、有機リン化合物の多様な誘導体化は困難です。私たちは、安定で取り扱いが容易なリン化合物を求核剤とした、簡便で一般性の高い有機リン化合物の合成法の提供を目指しています。最近では、間接的に求核性をもつH-ホスフィナートとハロゲン化アリールとの、ニッケルを触媒とした新しいクロスカップ

リング反応を見出しました(式2)。また、ベンゼン環に限らず様々な官能基をリン原子に導入可能であると考え、検討を行っています。

現在、本研究の一部を奥羽大学若手研究奨励金助成により行っています。この場を借りて厚くお礼申し上げます。



薬学部の佐藤佳澄さんが 第1回AROMA RESEARCH 2015・論文奨励賞を受賞



筆頭筆者の
佐藤 佳澄さん

薬学部の5学年・佐藤佳澄さん(関健二郎研究室所属)が、国内学術専門誌・AROMA RESEARCHの論文奨励賞を受賞した。受賞した論文名は、「長期隔離飼育マウスの攻撃性獲得と抑うつ症状発症に対するオイゲノール芳香の予防効果(筆者:佐藤佳澄、八代彩愛、関健二郎)」。

佐藤さんは、香料成分オイゲノールの香りが、ストレス環境下で育成したマウスの攻撃性獲得や抑うつ症状発症を顕著に予防することを証明した。この結果が、「香りの機能と効用に関わる基礎・応用分野の進歩の寄与に期待される」として評価された。

自著を語る

『放射薬品学』

小佐野博史 志村紀子ほか5名共著 南江堂 2015.12

本書の執筆計画が挙がり、各大学で放射薬品学を担当している教員達が集まり会議を行った。容赦ない意見が出され、当初の「薬学生向けのやさしい教科書を作る」という目的からだんだん離れ、教科書としては、やや盛りだくさんの欲張った内容となった。共著者は全員が著者及び編者となり、全員の内容を添削し、時間をかけやっと出来上がった本である。かなり推敲され、間違いの少ない内容になっていると思う。私は、基本的な部分である「原子核及び放射能」、「原子核反応と放射性同位元素の製造」の2つの章を担当し執筆した。大学という最高学府で学ぶ薬学生には、放射線関連について本書の内容くらいは知っておいてもらいたいと願う。

(薬学部物理化学分野 講師 志村紀子)



臨床実習学外研修参加報告

2月16日(火)から3月9日(水)にかけて、歯学部5年臨床実習生の学外研修が福島市の生愛会ナーシングケアセンター（老健）と西郷村の太陽の国（特養1施設と障がい者支援施設2施設）で実施された。

臨床実習生28名がいずれかの施設を訪問した。主な研修内容は食事介助、口腔ケア、利用者との交流などであった。

臨床実習生の感想では、施設での口腔ケアは病院でのブラッシング指導とは異なり、短時間で多くの利用者を見る難しさを挙げる者が多かった。

附属病院

臨床教育セミナー

2月4日(木)、花岡洋一教授(法歯学)を講師に臨床講義室で「虐待の根絶を目指して～歯科界の新たな役割～」と題した講演が行われた。

これは今般、小児歯科の島村和宏教授と加川千鶴世助教が作成した「児童虐待アセスメントシート」の活用を踏まえてのものである。その中で虐待の早期発見と防止に主眼をおき、虐待の分類と歯科医の役割について解説があった。

中でもいわゆる児童虐待防止法に基づいて歯科医師には早期発見と通報が義務付けられていること、さらには具体的な通報先や早期発見の指標(歯や口腔内のみならず、頸部、顔面部の観察)①平手打ち痕、②扼痕(やくこん)③索状(条)痕などの特徴的創傷痕が認められれば、子供を救うために迷わず通報すべきとの講演に参加者一同は引きこまれていた。



瀬川教授ら歯周病減少へ提言書

3月16日(水)、公益財団法人郡山市健康振興財団は歯周病検診などの検診方式についての提言をまとめ、郡山市長に提言書を手渡した。

歯学部瀬川洋教授らは研究協力者として提言の総括的役割を担った。提言書では、歯科口腔データの収集や新たな歯周病検診方式導入の必要性など下記の4点を指摘している。

- ①特定健診の問診に歯科口腔に関する項目を加える。
- ②「ペリオスクリーン検査」を導入する。
- ③口腔ケアや生活習慣病予防を啓発する。
- ④保健指導を強化する。

歯科医師臨床研修修了式

3月25日(金)、臨床研修修了式が臨床講義室で執り行われた。

式でははじめに、山森徹雄研修管理委員長より32名の研修歯科医一人ひとりに修了証が授与された。つづいて杉田病院長から訓示があり、志を持ち続けて欲しい、さらに人からかわいがられる人物になってもらいたいと、はなむけの言葉を贈られた。

1年間の研修を無事終えた彼らは、4月から晴れて一人前の歯科医師として認められる。各人の新たな環境での活躍が期待される。



父兄会

平成 28 年度歯学部・薬学部父兄会役員ならびに主な行事予定と予算については下記の通りである。

歯学部

「平成28年度役員」

歯学部父兄会

会 長	未定
副会長	〃
監査役	〃

「主な行事予定」

定時総会	平成28年 4月 4日(月)
	平成28年 5月21日(土)
	平成29年 3月10日(金)
共済基金委員会	平成28年 5月21日(土)
	平成28年10月15日(土)
	平成29年 3月10日(金)
幹事会	平成28年 5月21日(土)
	平成29年 3月10日(金)

地域会(全体会・個別懇談会・懇談会)

平成28年 7月 3日(日)	東京	大森東急REI
平成28年 7月10日(日)	大阪	大阪ガーデンパレス

「予 算」

(収入の部) (単位:円)

科 目	本年度予算額
前 年 度 繰 越 金	16,025,913
入 会 金	790,000
会 費	8,400,000
地 域 会 参 加 費	250,000
雑 収 入	3,000
合 計	25,468,913

(支出の部) (単位:円)

科 目	本年度予算額
通 信 費	250,000
印 刷 費	100,000
会 議 費	900,000
消 耗 品 費	250,000
旅 費 交 通 費	1,300,000
慶 弔 費	150,000
雑 費	10,000
地 域 会 開 催 費	1,680,000
課 外 活 動 援 助 費	3,290,000
学 生 福 利 厚 生 費	1,350,432
奥羽大学歯学会協賛費	100,000
学 習 活 動 助 成 費	2,500,000
予 備 費	13,588,481
合 計	25,468,913

薬学部

「平成28年度役員」

薬学部父兄会

会 長	菅野 淳一
副会長	澁川 直久
監査役	松崎 三雄

「主な行事予定」

定時総会	平成28年 4月 4日(月)
	平成28年 5月27日(金)
	平成29年 3月10日(金)
幹事会	平成28年 5月27日(金)
	平成29年 3月10日(金)
保護者懇談会	平成28年 5月27日(金)
	平成28年 8月 6日(土)

「予 算」

(収入の部) (単位:円)

科 目	本年度予算額
前 年 度 繰 越 金	25,141,989
入 会 金	1,400,000
会 費	13,140,000
雑 収 入	10,000
合 計	39,691,989

(支出の部) (単位:円)

項 目	本年度予算額
通 信 費	200,000
印 刷 費	100,000
会 議 費	1,300,000
消 耗 品 費	50,000
旅 費 交 通 費	400,000
雑 費	150,000
課 外 活 動 援 助 費	1,600,000
学 生 福 利 厚 生 費	22,540,000
予 備 費	13,351,989
合 計	39,691,989

同窓会だより

三村 俊男(埼玉県支部長 歯学部5期生)

皆様、こんにちは。今年度より埼玉県同窓会支部長に就任しました、5期の三村です。宜しくお願いいたします。

埼玉県同窓会は現在1期生から35期生までの50名の会員がおります。

昨年6月に同窓会の会員であります2期生の小川恵介先生が、越谷市歯科医師会会長に就任されました。

また、11期生の栗田修身先生が越谷市歯科医師会の専務理事に就任されました。大変、喜ばしいことで、同窓会一同みんなで応援しています。厳しい歯科界の為に、これからも一層頑張っていただきたいです。

現在、同窓会役員として

副支部長(専務・総務)	藤原 基	7期生
副支部長	岡野 秀俊	6期生
理事(福祉厚生)	荒川 武久	3期生
理事(学術)	上岡 斉	8期生
理事(学術)	渡辺 聡	29期生
理事(会計)	大瀬 昭治	26期生
理事(会計)	藤井 伸明	19期生
理事(会計)	渡辺 敏尚	22期生
監事	西澤 祐司	1期生
監事・相談役	大谷 正人	4期生
相談役	佐合 正	1期生
相談役	福田 茂樹	2期生
相談役	松尾 秀喜	4期生

以上のメンバーで、活動しています。

新年会(2月)、総会(6月)を開催し、総会時には学術講演会の講師を、主に母校よりお迎えして講演していただいております。

現在理事として、若い期の先生方にも同窓会活動に参加していただいております。

埼玉県に就職なさる先生、開業なさる先生、薬学部の卒業生の皆様、是非、同窓会に入会してください。皆、笑顔でお待ちしております。よろしくお願いします。

同窓生のひろば



小海 潔(歯学部8期生)

同窓生の皆様いかがお過ごしでしょうか。

私は本学歯学部を昭和60年に卒業し、埼玉県・群馬県での勤務後、平成元年に新潟県長

岡市にて開業しました。13年前より社会保険の審査委員を務めさせて戴いており、3年前からは主任審査委員を担当しています。審査、会議、保険者対応、職員研修等で月7回程度の出務があります。

13年で紙レセプトの単月審査からレセプト電算システムによる縦覧・突合審査、算定日情報による審査に変わりました。数年前まで、対面が見えないほどに山積された紙レセプトを捲っては、赤ペンあるいは茶ペンで返戻・査定処理していましたが、紙レセプトの山はパソコンのディスプレイに変わりキーボードでの審査処理になり、アナログ人間の私にはストレスになっています。

さて生活面では、10年程前からダイエット目的で始めたジョギングも、第2回、第4回東京マラソンに出場することが出来るくらいになったのですが、モチベーションを維持できず中断してしまいました。その後、体重増加のため一昨年の春から再開し、週2,3回3キロ程度から始め、徐々に距離を延ばしました。長い距離を走るようになると東京マラソンでのゴールの瞬間の達成感や感動をまた味わいたいと思うようになり、第9回大会に応募し9月末に当選の知らせが届きました。それから本格的なフルマラソンの練習を始め、5カ月で約800キロの走りこみで当日を迎えました。練習の甲斐あって、最後の方で足が止まって歩いてしまうことなく、よれよれになりながらもベストタイムで完走することが出来ました。50歳過ぎでのフルマラソンは準備も含めハードで、もう出場することはないと思いますが、体形維持のためジョギングは続けていきたいと思っています。

最後になりましたが、同窓生の皆様方のご健勝をお祈りいたします。



遠藤 幸恵 (旧姓: 網藤)
 (文学部日本語日本文学科11期生)
 平凡な日常こそ、なによりの幸せ
 奥羽大学日本語日本文学科
 を卒業して、早いもので 13 年
 が経ちました。私は今、夫の

仕事の関係で宮城県の亘理町という町に住んでいます。この太平洋をのぞむ位置にある小さな町は、はらこ飯やいちごの栽培で有名です。伊達政宗の重臣、伊達成実公が治めた町としても知られており、小学校の運動会や音楽発表会では、高学年の子供たちがとても誇らしげに「成実ばやし」というおはやしを披露してくれます。

この町での暮らしも 4 年目を迎え、引っ越してきた当初 4 歳だった長女は中学 1 年生に、当時まだお腹の中にいた次女は 3 歳、生まれも育ちも亘理町の 3 女は 1 歳半になりました。3 人の娘たちはみなそれぞれに个性的で、時々付いていくのがやっとになるくらい元気いっぱいです。

在学中に卒論担当教授の勧めで応募した福島県文学賞、詩小説部門*において正賞を頂き、一時は創作活動の道を志したいと思っていたこともありましたが、今ではすっかり子育て中心、子供と過ごす時間がなによりの幸福なひとときとなりました。

自分の時間があまり得てないので、この原稿を書いているこの瞬間は、子供たちが折り紙遊びに夢中になっている隙をねらってパソコンを開きました。次女がハサミで折り紙をチョキチョキ切りながら言います。「ママ、もうそれやめて」。さっきまで騒いでいた 3 女が急におとなしくなったので見てみると、テーブルの下に隠れてスティックのりを人差し指でホジホジ。小学校から帰ってきた長女が「お腹すいた」と言ってヨーグルトを器に盛りますが、盛りすぎてあふれかえってテーブルはベタベタ……。これが今の私の日常です。

*編集部注 網藤幸恵著「風と星の調和の取れたリズム」(『県文学集〜第 57 回福島県文学賞作品集』第 52 集 平成 16 年度版 福島県教育委員会 所収)

「藤井史郎文庫」オープン

図書館ではこのほど平成 26 年 9 月に受贈した故藤井史郎教授旧蔵の図書 2,654 冊の整理が完了し、図書館 2F 閲覧室に「藤井史郎文庫」として公開した。閲覧、館外貸出もできる。

藤井史郎氏は昭和 24 年生まれフランス文学者で、平成 9 年 4 月から亡くなられる平成 26 年 8 月 8 日まで本学に在籍、文学部ではフランス語・フランス文学を、歯学部では英語を担当された。現代カトリック作家の一人であるモーリヤック、中でも「テレーズ・デスケルー」を研究され、作品の翻訳や全集の解題も執筆された。この文庫は、洋書の 1,441 冊は主に英語・フランス語及びフランス文学関係、和書の 1,213 冊は日英仏の語学・文学のみならず、西洋の哲学・宗教、歴史・地理・生活・芸術、医学・歯科英語など幅広い分野にわたる。



二期会の皆さまへお知らせ

皆さまお元気ですか。歯学部二期会では記念誌発刊の準備をしております。40 数年間の思い出をお寄せください。締切は 5 月 5 日(木)です。

連絡先は、雨宮または大森です。詳細資料は後日改めて送付いたします。

また、二期会のメーリングリストにメアドを未登録の方は新村(t.shimmura@gmail.com) までメールをしてもらえるとありがたいです。

編集委員 加藤丈雄 渡辺尚俊

(関東圏 C 組) 雨宮淳 江波戸正順 大森道男

監 事 高橋顯仁

(雨宮) amemiya.dci@oregano.ocn.ne.jp

TEL・FAX 029-851-5535

(大森) lukesky2006@yahoo.co.jp

TEL 045-373-7557

FAX 045-382-7443

本学関係新聞記事案内(平成26年12月～28年3月31日)

(図書館調べ)

*日付は新聞掲載日を示しています。記事の本文は図書館1階新着図書コーナーファイルをご覧ください。

- 平27. 2. 4 **授業料全額免除の特待生制度** 奥羽大学 2015年度入学試験から開始。(教育学術新聞)
- 平27. 2.26 **赤川氏(奥羽大学長)会長賞 日本歯科医学会** 先端的研究を評価。(福島民報)
- 平27. 2.27 **赤川奥羽大学長に歯科医学会会長賞** 同賞は同学会で最も名誉ある賞とされ、本年度は赤川学長を含め7人が受賞した。(福島民友)
- 平27. 2.28 **日本歯科医学会会長賞を受賞 奥羽大学長赤川安正氏に聞く** 研究活性化、成果生かす。(福島民報)
- 平27. 3.11 **歯科医師、薬剤師へ一歩 奥羽大卒業式** 151人晴れの日。(福島民友)
- 平27. 3.11 **奥羽大の卒業式** 151人学びや巣立つ。(福島民報)
- 平27. 3.27 **課外授業に学生派遣** 郡山市教委4大学と協定。(福島民報)
- 平27. 3.28 **学習支援で協定** 郡山教委と市内4大学。(福島民友)
- 平27. 4. 5 **大学生生活希望の一歩** 奥羽大ほか県内の私大3校4日に入学式。(福島民友)
- 平27. 4. 5 **期待胸に入学式** 奥羽大歯学部64人、薬学部86人が入学。(福島民報)
- 平27. 4.28 **奥羽大薬学部柏木研究室** 薬投与の最適化研究 大学ゼミ拝見。(福島民友)
- 平27. 7.21 **来月、ロボット科学教室** 小、中学生対象に奥羽大。(福島民友)
- 平27. 7.24 **奥羽大ロボット教室** きょうまで参加者募集。(福島民報)
- 平27. 7.28 **ミニ講義や実習体験** 奥羽大オープンキャンパス。(福島民報)
- 平27. 8. 1 **奥羽大歯学部高田訓教授講演** 顎骨壊死の特徴を紹介 郡山医師会が夏の集い。(福島民報)
- 平27. 8. 2 **学校見学会で魅力アピール** 奥羽大のオープンキャンパス。(福島民友)
- 平27. 8. 9 **ロボット製作に挑戦 奥羽大の教室で小中生** ものづくりの魅力実感。(福島民報)
- 平27.11.10 **万人一語 赤川安正・奥羽大学長** 健康長寿を支える歯科医療の新しい価値。(新聞QUINT)
- 平27.11.17 **県産食材は安全 奥羽大でセミナー** 学生250人が参加。(福島民友)
- 平27.12. 5 **奥羽大薬学部長衛藤雅昭さん** 話題のあの人。(リビング郡山・リビング福島)
- 平27.12.15 **次世代型の薬剤師を 奥羽大薬学部早坂研究室** 大学力ゼミ拝見。(福島民友)
- 平27.12.16 **ふくしまパワーふぁいる 奥羽大学 衛藤雅昭薬学部長に聞く「人材還元し地域医療に貢献」**
現役学生(薬学部6年熊谷文哉さん)の声「豊富な実習、直接指導も魅力」
授業料免除 歯学部・薬学部の特待生制度 経済的負担軽減し大学進学を後押し[広告全1ページ特集]。(福島民友)
- 平27.12.16 **パワーアップふくしま 奥羽大学薬学部** 地域医療支え10周年 人間性豊かな薬剤師養成 奥羽大薬学部長衛藤雅昭氏に聞く「産学官連携、復興に貢献」薬学部6年生熊谷文哉さん「夢は研究者、充実の日々」[PR全1ページ特集]。(福島民報)
- 平27.12.29 **神山さん(須賀川桐陽高卒)座長賞** 奥羽大薬学部長に報告 日本クリニカルパス学会学術集会。(福島民報)
- 平28. 1.20 **奥羽大・神山さん** 医療の質改善へ研究 学術集会で座長賞。(福島民友)
- 平28. 1.22 **奥羽大の大島教授** 歯周炎の原因遺伝子解明 治療薬開発へ前進 米専門誌に論文掲載へ。(福島民友)
- 平28. 2.16 **奥羽大の大島光宏教授** 特有の線維芽細胞と原因遺伝子を発見 歯周炎 新たな原因が浮上。(日本歯科新聞)
- 平28. 3.18 **歯周病減少へ提言書 郡山市長に市健康振興財団** 新たな検診方式など4点 医科・歯科が連携。(福島民報)
- 平28. 3.31 **「あいうべ体操」今井さんが講演** 4月17日に奥羽大。(福島民報)

赤川学長ご退任のあいさつ



学長 赤川 安正

この度、学長任期の3月31日
をもちまして退任することとなり
ました。影山英之理事長とのご
縁をいただいて平成25年4月に
赴任し、あっという間に過ぎた3年間でした。この間
にあって教職員の皆様からの暖かくも力強いご支援・
ご協力をいただき、そのおかげで任期をまっとうでき
たこと、心から感謝いたします。

本学がさらに「行きたい大学」「選ばれる大学」に
なるよう、建学の精神のもと、教職員が一丸となって
さらに励まれ、奥羽大学を益々発展させられることを
心から祈っています。3年間のご支援、本当にありが
とうございました。

退職によせて



歯学部
口腔機能分子生物学講座
教授 宗形 芳英

昭和62年4月1日付で赴任以
来、29年間お世話になりましたが、
定年の節目として3月31日で退職することになりました。
過ぎ去った年月は一瞬であり、とても楽しい思い出ばかり
が心に残っています。特に記憶に残っていることは、大
学名が東北歯科大学から奥羽大学になった年に、ラグ
ビー部を創設された恩師の後任として、部長（現在は顧
問制に移行）をお引き受けし、多くの部員との交流を持て
たことでした。歯学体（オールデンタル）には毎年同行し、
雪の中や凍った地面の上でも果敢にプレーする学生たち
を応援するのが非常に楽しみでした。教育面では、本学
共用試験の運営に関われたことが大変貴重な経験でし
た。CBTワークショップでの若手の先生方との活発な議
論が毎回楽しみで、日増しに硬直化しつつあった頭脳が、
その時だけは一瞬柔らかくなっていくように感じたほどでし
た。研究面では、震災の翌年に本学が主催した歯科基
礎医学会の準備や運営に関われたことで、口腔生理学
談話会の世話人として、恩師の方々や多くの先輩諸氏
が築いてこられた歴史の1ページに名を連ねることができ
たことは大変光栄でした。

最後になりましたが、私がここまで無事に職務を全うで
きましたのも教職員ならびに事務職員の方々のご支援、
ご協力のおかげであり感謝の気持ちで一杯です。奥羽
大学の益々のご発展を心からお祈り申し上げます。本当
にありがとうございました。

人 事

<採用>

長 滝 真 由 子	看 護 師	病院医療部	1月 7日付
根 本 友 樹	事 務 職 員	歯学部学事部	2月 1日付

<異動>

	旧	新	
長 谷 川 康 明	歯学部学事部 係 長	薬学部学事部 係 長	2月 1日付

<任期満了>

赤 川 安 正	学 長		3月31日付
清 野 和 夫	教授兼事務局長	臨 床	〃

<定年>

宗 形 芳 英	教 授	口腔機能分子生物学	3月31日付
---------	-----	-----------	--------

<退職>

宗 形 文	事 務 職 員	薬学部学事部	1月31日付
國 井 智 子	看 護 師	病院医療部	〃
高 橋 進 也	助 教	口腔外科学	3月31日付
岸 飛 鳥	〃	生 体 構 造 学	〃
湯 澤 仁	〃	口腔機能分子生物学	〃
吉 田 健 司	助 手	口腔外科学	〃
池 田 悠 太 郎	〃	臨 床	〃
佐 川 優	〃	〃	〃
山 本 雄 介	〃	〃	〃
高 山 浩 史	〃	〃	〃
村 島 直 道	〃	〃	〃
島 田 佳 奈	〃	〃	〃
中 池 祥 浩	〃	〃	〃
遠 藤 未 来	〃	〃	〃
小 松 泰 典	〃	〃	〃
阿 部 賢 志	講 師	薬 学 部	〃
加 藤 由 起 子	歯科衛生士主任	病 院 医 療 部	〃
木 村 瑛 未	歯科衛生士	〃	〃

平成28(2016)年度オープンキャンパス実施計画

開催日	時間	内容
7月16日(土)	10:00～13:00	学部紹介、入試説明、ミニ講義 キャンパス見学、実習体験、個別相談、学食体験 等
8月4日(木)	13:00～16:00	学部紹介、入試説明、ミニ講義 キャンパス見学、実習体験、個別相談 等
9月3日(土)	10:00～13:00	学部紹介、入試説明、ミニ講義 キャンパス見学、実習体験、個別相談、学食体験 等
10月15日(土)	10:00～14:00	個別進学相談会
2017年 3月24日(金)	13:00～16:00	学部紹介、入試説明、ミニ講義 キャンパス見学、実習体験、個別相談 等

卒業式風景



奥羽大学報149号(通算No.274)平成28年3月31日発行

発行

奥羽大学

学報編集委員会

委員長 赤川 安正

☎963-8611 福島県郡山市富田町字三角堂31番1

電話 024 (932) 8931(代) FAX 024 (933) 7372

ホームページアドレス <http://www.ohu-u.ac.jp>メールアドレス info@ohu-u.ac.jp

※「奥羽大学報」送付先変更の方は、FAXまたはメールでご一報をお願いします。